

日本語における「オノマトペ+する」の名詞修飾用法

黄 慧

(東京外国語大学大学院地域文化研究科 博士後期課程)

キーワード：オノマトペ、スル動詞化、名詞修飾、コーパス、日本語教育

1. はじめに

本稿では、「オノマトペ+する」¹に焦点をあて、「スル動詞化」²したオノマトペによる名詞修飾用法について考察する。「オノマトペ+する」と被修飾名詞を分類し、「オノマトペ+する」型はどのような名詞を修飾しているのかについて分析を行ったうえで、被修飾名詞と「オノマトペ+スル/シタ/シテイル/シテイタ」における相関関係について考察することを目的とする。

2. 先行研究

日本語における名詞修飾に関する研究は盛んに行われているが、「オノマトペ」の名詞修飾用法に関する研究は非常に少ないようである。ここでは、「する」型と「の/な」型による名詞修飾の違いについて考察を行った笹本(2007)、「スル/シタ/シテイル」の3形式で形容詞的に名詞を修飾する用法について考察を行った高橋(1994)、アスペクトの観点から「オノマトペ+する」の名詞修飾用法について触れた譙(2010)を取り上げる。

2.1. 笹本(2007)

笹本(2007)にも指摘があるとおおり、文法論の立場からオノマトペの名詞修飾用法について論じたものは非常に少ない。笹本(2007)は、考察範囲をテンスやアスペクトの分化がなく、名詞を修飾する際に、常に「～シタ」、「～スル」、「～シテイル」⁴の形態が固定的であり、属性規定をしているものだけを研究対象とする。オノマトペの名詞修飾用法について以下の5つのパターンを挙げている。1)-2)は、オノマトペに「の」或いは「な」が後続した形で名詞を修飾しているため、形容詞な形式つまり形容詞

¹ 「オノマトペ+する」という表記は、「する」の諸活用形を含む。つまり「スルN」「シタN」「シテイルN」「シテイタN」を含む。

² 「オノマトペ」に「する」がつく現象について、伊東(2006)では「オノマトペの“する動詞化”」、川瀬(2006)では「象徴詞を動詞化する」という言い方をしている。本稿でもこれらの先行研究に倣い、オノマトペに「する」がつくことを「オノマトペのスル動詞化」と呼ぶことにする。なお、場合によっては「オノマトペ+する」という言い方を用いる場合もある。

本稿では、「する」を諸活用形の代表として扱う時には「オノマトペ+する」型と呼び、平仮名で「する」と表記する。具体的に個別の活用形を表す際には、「スル」形、「シタ」形、「シテイル」形のように片仮名で表記する。このように、「型」と「形」について使い分けをしていることを断っておきたい。

³ ここでは「擬音語・擬態語」の総称として「オノマトペ」という用語を用いる。金田一(1978)では、擬音語・擬態語を次のように分類している。外界の音を移した言葉として、①擬音語：無生物の音を表すもの(例：かちっ) ②擬声語：生物の音を表すもの(例：わははは)、さらに、音を立てないものを音によって象徴的に表す言葉として ③擬態語：無生物の状態を表すもの(例：さらさら) ④擬容語：生物の状態(動作様態)を表すもの(例：のろのろ) ⑤擬情語：人間の心の状態を表すもの(例：わくわく)

⁴ さらに、「オノマトペ+する」型の考察範囲から助動詞や語末形式がついた形で修飾しているもの(例：「～ような」、「～はずの」等)を除外している。

による名詞を修飾する用法であり、3) -5)は「オノマトペ+する」という「スル動詞」の形で名詞を修飾しているため、動詞的な形式つまり動詞による名詞を修飾する用法である。なお、以下からは先行研究に倣い、オノマトペには下線、被修飾名詞には囲み線を付する。

- | | |
|-------------|--|
| 1) 「～のN」 | (1) しかし最近では新しいボールが手に入らなくなり、空気の抜けたような <u>ペコ</u>
<u>ペコ</u> の弾力のない <u>ボール</u> しか使用することができない。 |
| 2) 「～なN」 | (2) <u>めっちゃめっちゃな</u> / <u>そっくりな</u> |
| 3) 「～するN」 | (3) 担架の上に臥ている仲三さんは、 <u>むんむんする</u> 生臭いような <u>臭気</u> を発散させていた。 |
| 4) 「～したN」 | (4) 「昇天させて。 <u>ふわふわした</u> <u>雲の上</u> で眠らせて。(略) |
| 5) 「～しているN」 | (5) 花や、 <u>ゆらゆらしてる</u> <u>羽根飾り</u> が い っぱいついてる帽子をかぶって、金時計を持って、キッドの手袋や靴をつけてることにしたの。 |

(笹本 2007: 26)

笹本(2007: 59)によれば、「音韻的な特徴だけで名詞修飾できるかどうかはすべて決まるわけではなく、意味的フィーチャーによって名詞修飾できるかどうか、また名詞修飾の型も決まるようである。」擬情語のように感情を表すものや、何らかの感情が態度として焼きついた動きを表すものは、「スル」、「シタ」を取るものが圧倒的に多く、「ノ」型の用例は収集できなかつたと述べている。そして、(6)のようにある一時的な感情や態度を表すだけでなく、(7)のようにそういう感情や態度をよく表すというような意味になり、ポテンシャルな性格や性質を表していることも多い。この場合、被修飾の名詞にその性格や性質のもちぬしである人を表す名詞が現れるほか、「気持ち」「様子」「性格」「たち」など、高橋(2005)の「側面語」のようなものが多いということが特徴的である。この点において、被修飾名詞に具体的な名詞を取る擬態語と違う点であると指摘している。また、「シテイル」の用例もわずかあるが、その場合は、現在あるいは一定期間に限定された感情の状態だけを表すようである。つまり、以下の(8)の「くよくよする」は、「女」のポテンシャルな性質を表すのに対して、(9)のように感情の状態を表し、時間的な限定が加わり、より動詞的に働いているものとして考えられると述べている。一般に、感情や感覚は、アクチュアルなものである。一方、性質や属性はポテンシャルなものであり、超時間的なものである。また、感情や感覚を表すオノマトペは、述語用法を取ることも多い。(P57)

- (6) だが、内藤のがっかりした様子に、私はまずいなと思った。
- (7) 信長は、家来に、命令の念を押されるがなによりもいやな男であった。言葉をかえていえば、念を押してやると命令を理解するような、いわば鈍感な家来にいらするたちである。
- (8) 私も愛していたのですから、もっと自分を強く主張して、何でも本心からうちあけてくれればいいのに、あどけないほどたよりなくて、ひとりでくよくよする女だったので。」
- (9) 結婚出来ないと云って心中しかけて未遂で助かって、まもなくお互いに顔を見るのもいやになった奴もいれば、

⁵ ここでいう「名詞修飾の型が決まってくる」とは、つまり「する」による名詞修飾になるのか、それとも「な/の」による名詞修飾になるのか決まってくるということである。

五年たっても十年たっても同じ女のことを思ってくよくよしている罎もいる。

(笹本 2007: 58)

オノマトペと組み合わさる動詞が支配されていて固定的なもの、オノマトペが表す語彙的意味がある特定の動きの様子を限定するようなものは、名詞修飾しない傾向にあると述べられている。さらに、オノマトペが表す語彙的意味を持つ時間的な限定のあり方(時間的な限定を持つ状態か、時間的限定を持たない超時間的な属性かという意味的特徴)によって名詞修飾の形式や表す意味を決定付けられている。

2.2. 高橋(1994)

高橋(1994)は、「形容詞的用法」としてオノマトペが「スル/シタ/シテイル」の3つの形式で名詞を修飾するものについて用例を挙げ、考察を行っている。高橋は、オノマトペが取り得る「スル/シタ/シテイル」の3形式によって修飾される名詞に違いがあることに触れている。さらに3形式によって用いられるオノマトペの違いについて以下のように用例を挙げている。「スル」を伴うオノマトペは、(10)のように「心理的な状態をしめすもの」、(11)のように「心理的なものが行動にあらわれたもの」、(12)のように「感覚的なものをしめすもの」に多く見られる。

- (10) 部屋に入られることぐらいでいらいらする私が神経質なのでしょうか。
- (11) 顔をほころばせてにっこりすることは好意の表現と歓迎される社会もあろうし、人をばかにしていると不快に思われる場合もあるかもしれない。
- (12) しかし、そのゾクとする冷たさはふしぎと心に残ったげなたい。マ

(高橋 1994: 36-38)

「シタ」形で名詞を修飾する場合は(13)のように「手で触ったカボチャの感触」を示し、(14)のように「目でとえた顔の描写」を示す。そして、(15)のように「いずれも目でとらえた物事の描写であるが、観察主の気持ち、心情も含まれるもの」、(16)のように「話し主の感情、気持ちを表す形容詞的なもの」、(17)のように「本来もっている意味が抽象的な意味に転じ、それが形容詞的に使われているもの」があると述べている。

- (13) 日本のカボチャはごつごつした深紅色のが多いけど、西洋のカボチャはツルンとしたオレンジ色だ。
- (14) その縁に生えている、白とも金とも見えるくつきりしたまつげ。
- (15) おっとりした話し方にしんの強さが包まれる。
- (16) 家庭旅行村もあり、のんびりした時間を過ごすにはもってこい。
- (17) 私らは官僚出身で政策は分かりやすいが、人脈とか人と人のドロドロした関係は下手なんだ。

(高橋 1994: 38)

「シテイル」形で名詞を修飾する場合は、(18)、(19)のように「修飾する名詞の状態をそれぞれあら

わしている」と説明している。

- (18) 主人や子どもはハツラツとしている私のことをととても誇りに思ってくれている。
 (19) 一日中お肌がしっとりしていることが美しい肌の必須条件

(高橋 1994: 38)

2.3. 譙(2010)

譙 (2010)は、「オノマトペ+する」をアスペクトの観点から考察したものである。考察に当たっては、青空文庫から用例を収集し、主に鈴木(1957)の動詞分類に従い、「オノマトペ+する」を①動作性動詞、②状態性動詞、③動作状態性動詞の3つに分けて数量的な考察を行っている。「オノマトペ+する」による名詞修飾用法についても触れているが、被修飾名詞の考察は積極的に行っていない。

譙 (2010)によれば、動作性動詞において(20)、(21)のような継続動作性動詞の場合には「スル」形と「シテイル」形がある。そして、「シタ」形も多く見られる。(22)では、「毎日のように」と共起して、動作のくりかえしを表し、(23)の「うろうろしている」とほぼ同じ意味で用いられている。しかし、瞬間動作性動詞は、「シテイル」形と「シタ」形のみで「スル」形のものは見られないとしている。さらに、「シテイル」形と「シタ」形を比べると、(24)のような「シタ」形のほうが多く用いられているということが考察されている。

- (20) (前略) 先刻の二十五文を残らず投げ出せば、入り口でうろうろしている三人は、ああ、あの金兵衛左の妻子が今夜の米代としてあてにして、・・・(後略)
 (21) 彼は暗い夜を敷むいて眼先にちらちらする電灯の光を見廻して、自分をその中心に見出した時、この明るい輝きも必境自分の見残した夢の影なんだろうと考えた。
 (22) ホラ、この町を毎日のようにうろうろした変な婦人が有りましたろう。
 (23) 毎日のように並木街をうろうろしている不思議な婦人が窓の硝子を通して彼の眼に映った。
 (24) 丁度その時、戸外にしょんぼりした足音がして、今日失業したばかりの豹一が帰ってきた。

(譙 2010: 85-86)

状態性動詞においても、「シテイル」形と「シタ」形のみで、「スル」形のものは見られないが、いずれも「シタ」形のほうが多用されているのが特徴的であると述べている。「オノマトペ(と)した」の形で現れたものは(25)のように、動詞の基本的な性質を欠いて、ものごとの属性を現す形容詞の性格とほとんど変わらないと主張している。

- (25) ずんぐりと太い足にまじっているために、なよなよしたその細い足は一層目立っていた。

⁶ 動作動詞はさらに継続動作性動詞と瞬間動詞に分類されている。

⁷ 譙 2010 は動作動詞、状態性動詞、動作状態性動詞の3分類のうち、動作状態性動詞をさらに、次のように6つに分類している。1) ポテンシャルな能力を表す動詞(できる/効く/要する)、2) 現象を感覚とむすびつけて表わす動詞(見える/音がする)、3) 話しての生理状況を表わす動詞(頭痛がする/寒気がする)、4) 現在の状態、主張を表わす動詞(ちがう/似合う/-に限る)、5) 話し手の態度、主張を表わす動詞(ねがう/希望する)、6) 心理的内容の形式を表わす動詞(思う/考える/感じる)

(譙 2010: 86)

動作状態性動詞の場合、感情を表すものは「スル」形、「シテイル」形、「シタ」形が用いられるのに対し、瞬間的感情・感覚を表すものは「スル」形と「シタ」形のみで、「シテイル」形は見られない。そして感覚を表すものは「シタ」形のみであり、「語によってタ形さえ用いられないものも多いようである」と述べている。(26)は感情を表すもの、(27)は瞬間的感情・感覚を表すもの、(28)は感覚を表すものである。

(26) (前略) 皆いらいらした気持ちで或る百姓家の前に来かかったとき、いきなり行手を塞いで焼け付くような地面に座り込んだ者が・・・(後略)

(27) 前略 薄気味悪い感触が、ぞっとするいやさで思い出されるのだ。

(28) 葉子はひりひりした痛みを感ずるらしく、細い呻吟声を立て、顔をしかめた。

(譙 2010: 87)

2.4. 先行研究のまとめと問題点

以上、「する」の形態的特徴、オノマトペの意味的特徴がその名詞修飾用法とどのように関わっているのかについて先行研究を概観した。「オノマトペ+する」型が取りうる「スル/シタ/シテイル」の3形式によって、修飾される名詞に違いが生じるということが分かった。さらに、オノマトペ自身の意味的特徴、或いは「オノマトペ+する」の特徴によっても修飾される名詞に違いが出てくるということも明らかになった。今まで「オノマトペ+する」型による名詞修飾用法に関する研究はあまり行われてこなかったが、これらの研究によって一部の特徴が明らかになってきたことは注目に値する。

しかし、笹本は「擬態語は具体的な語彙的意味を持つ名詞を修飾し、擬情語は「性格/様子」などの側面語を修飾している」と指摘しているが、擬態語が必ずしも主に具体的な名詞を修飾するとは限らない。さらに、高橋が提示している用例の(10)のように「いらいらする私が神経質なのでしょうか」における名詞修飾用法と、(13)のように「西洋のカボチャはツルンとしたオレンジ色」における名詞修飾用法は明らかに違うタイプのものであるにも関わらず、区別せずに議論を行っている。そして、譙(2010)は「戸外にしよんぼりした足音がして」を瞬間動作性動詞としてあげているが、「しよんぼりした」が瞬間的であるとは考えにくい。このように、まだオノマトペの名詞修飾用法の研究にはいくつかの問題が残されている。それに加え、これらの先行研究は、研究方法を含め、名詞の分類について明確な基準を設けていないことや、数量的な裏付けがされていない、或いは数量的調査を行っているものの、十分ではないといったことが問題点として挙げられる。

3. 研究対象・研究方法

本稿では、国立国語研究所が制作した『現代日本語書き言葉均衡コーパス 2009 モニター公開版』⁸ (以降 BCCWJ と称する)を用いる。BCCWJ は、均衡コーパスとして「書籍」「白書」「Yahoo!知恵袋」「国

⁸ コーパスの内容の詳細およびデータ数の詳細は、国立国語研究所(2009)『現代日本語書き言葉均衡コーパス モニター公開データ(2009年度版)の概要』を参照。

会会議録」で構成されているため、データの偏りを防ぐことができる。

まず、検索語彙としてのオノマトペを選定する。擬音語・擬態語辞典 7 冊(詳細は参考文献を参照)を用いて、この 7 冊すべてに収録されているオノマトペ 595 語を検索語彙として選定した。そこに、三上(2007)でオノマトペの基本語彙として選定されたオノマトペのうち、595 語に入っていない 9 語を追加し、全部で 604 語のオノマトペを検索語彙として選定した。BCCWJ に付属されている検索ツール「ひまわり」を用いて前後文脈 100 文字に設定し、ランダムで表示させるように設定を行った。

被修飾名詞の分類は、国立国語研究所(2004)『分類語彙表』を使用することにした。『分類語彙表』における名詞の分類は大きく 5 つ、「a 人間活動—精神および行為、b 自然物および自然現象、c 抽象的關係、d 人間活動の主体、e 生産物および用具」に分類されている。これらの 5 つの項目はさらに細かく下位分類されている。『分類語彙表』を使用したのは、主観的判断を行うことを防ぐためである。『分類語彙表』の項目から検索できないものに関しては、意味的に最も近い項目に分類する。なお、寺村(1975-1978)では、日本語の連体修飾を論じる際に形式名詞の「こと／もの…」、或いは「とき／あいだ」、そして相対名詞である「前／後ろ…」などを含めているが、奥津(1974)では、接続助詞化されている「とき、あいだ、・・・」等、助動詞化された「つもり、はず、・・・」等、多角的機能をもつ「コト、モノ」、さらに「必要」、「おそれ」などのようなものは、一般名詞と異なる性質があるとしている。本稿では奥津(1974)に従い、本稿では形式名詞や相対名詞などを一旦除外し、一般名詞のみを研究対象にする。形式名詞など本稿で扱うことができなかつたものに関しては、次稿に譲ることにする。

オノマトペの分類については、金田一(1978)を参照しながら、主に大坪(1988)における「知覚の対象によるもの(把握される事物のそのものを基準として分類)」に従い、「オノマトペ+する」の分類を試みた。大坪は「知覚の対象によるもの」を 19 に分類している。

本稿では、「サセル／サレル／シナイ」などを考察対象から除外し、「スル／シタ／シテイル／シテイタ」の 4 形式に焦点を当てている。BCCWJ から収集した用例は全部で約 7 万例あるが、「オノマトペ+する」の用例が全部で 10,035 例、「オノマトペ+する」による名詞修飾用法は全部で 3,089 例であった。本稿では、現代日本語におけるオノマトペの名詞修飾用法について考察することが目的であるため、文学作品においては 1945 年以降に生まれた作者に絞った。しかし、Yahoo!知恵袋と国会会議録に関しては発話者の年齢表示がないため、すべて分析対象にした。このようなプロセスを経ることで対象を 711 例に絞ることができた。本稿ではこの 711 例について分析・考察を行う。

4. 考察

3. の研究方法で述べたような手順で収集した 711 例のうち、オノマトペの異なり語数は全部で 147 語ある。まず、4.1. で被修飾名詞に関する数量的考察およびその特徴について述べ、4.2. で「オノマトペ+する」に関する数量的考察およびその特徴について述べる。最後に 4.3 でまとめについて述べる。

4.1. 被名詞修飾の意味的特徴に関する考察

4.1.1. 被修飾名詞の数量的考察

被修飾名詞を『分類語彙表』に従って分類したところ、図 1 のようになっている。ここから分かるように、「人間活動—精神および行為」が占める割合が最も多く、約 31%を占めている。「人間活動の主体」と「自然物」に含まれる身体名詞を加えると、人間に関わるものが占める割合が非常に高いこ

と分かる。したがって、「オノマトペ+する」型による名詞修飾用法は、人間に関する描写に最も多く用いられていることが分かる。

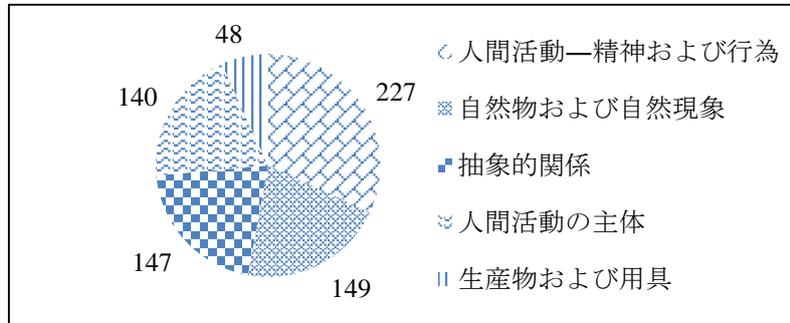


図 1: 被修飾名詞の分類

これら 147 語のオノマトペがそれぞれ修飾している名詞の数を次の表 1 に示す。ここから分かるように、名詞修飾用法においても使用頻度にはかなりのばらつきがある。

表 1: 「オノマトペ」と被修飾名詞(50 音順)

	オノマトペ	合計		オノマトペ	合計		オノマトペ	合計		オノマトペ	合計
1	あたふた	1	38	くらくら	1	75	すべすべ	1	112	ぴちぴち	1
2	あっさり	11	39	ぐらぐら	2	76	ずんぐり	3	113	びっくり	22
3	いちゃいちゃ	1	40	くりくり	2	77	せかせか	1	114	ぴったり	5
4	いらいら	9	41	げっそり	2	78	ぞくぞく	1	115	ぴっちり	1
5	うじうじ	2	42	げんなり	1	79	そわそわ	2	116	ひりひり	1
6	うずうず	1	43	ごちゃごちゃ	1	80	たっぷり	2	117	ぴりぴり	6
7	うっかり	1	44	こっくり	2	81	だらだら	5	118	ひんやり	5
8	うっとり	2	45	ごつごつ	5	82	ちくちく	4	119	ぶかぶか	2
9	うとうと	1	46	こってり	7	83	ちやほや	4	120	ふさふさ	1
10	うようよ	1	47	ごてごて	1	84	ちゃらちゃら	3	121	ふっくら	12
11	うろうろ	9	48	こりこり	3	85	ちらちら	1	122	ふにゃふにゃ	1
12	うんざり	7	49	ごりごり	1	86	つるつる	4	123	ぶよぶよ	1
13	おずおず	1	50	ころころ	1	87	つんつん	1	124	ふらふら	3
14	おっとり	6	51	ごろごろ	4	88	てきばき	1	125	ぶらぶら	3
15	おどおど	10	52	ごわごわ	2	89	どきどき	8	126	ぶるぶる	1
16	おろおろ	1	53	こんもり	1	90	どぎまぎ	1	127	ふわふわ	2
17	がくがく	1	54	さくさく	2	91	どっしり	2	128	べたべた	2
18	かさかさ	3	55	さっぱり	15	92	どろどろ	5	129	べったり	1
19	がっかり	6	56	さばさば	2	93	どんより	7	130	べっとり	1

20	がっしり	15	57	さらさら	7	94	なよなよ	2	131	ぼかぼか	1
21	かっちり	1	58	ざらざら	7	95	にこにこ	7	132	ほくほく	1
22	がっちり	6	59	さわさわ	2	96	にたにた	1	133	ぼそぼそ	1
23	かりかり	1	60	ざわざわ	2	97	ぬくぬく	1	134	ぼっちやり	5
24	ぎくしゃく	7	61	じくじく	1	98	ぬるぬる	3	135	ぼんやり	15
25	ぎざぎざ	1	62	じたばた	1	99	ねちねち	1	136	ほんわか	1
26	ぎすぎす	3	63	しっかり	101	100	ねばねば	1	137	むかむか	4
27	きっちり	4	64	しっくり	1	101	のっぺり	4	138	むっくり	1
28	きびきび	4	65	しっとり	4	102	のんびり	16	139	むっちり	3
29	きよろきよろ	1	66	しっぼり	1	103	はきはき	3	140	もじもじ	2
30	きらきら	6	67	じめじめ	2	104	ぱくぱく	1	141	もたもた	2
31	ぎらぎら	6	68	しゃんしゃん	1	105	ばさばさ	1	142	もやもや	8
32	ぐずぐず	3	69	しょんぼり	2	106	ばさばさ	3	143	やきもき	3
33	くたくた	1	70	じりじり	1	107	はっきり	97	144	ゆっくり	11
34	くっさり	4	71	しんみり	2	108	はらはら	2	145	よたよた	1
35	ぐったり	5	72	すーすー	2	109	ばりばり	1	146	わいわい	1
36	ぐにゃぐにゃ	1	73	すかすか	1	110	ぴかぴか	2	147	わくわく	5
37	くよくよ	10	74	すっさり	23	111	びくびく	4			

編みかけ: 5つの名詞分類項目全てを修飾する／下線: 4つ以上名詞分類項目を修飾する

これらのオノマトペが修飾する名詞はそれぞれどのようなオノマトペによって修飾されているのかについて考察する。「あっさり、すっさり、しっかり」の3語が修飾している名詞は『分類語彙表』における5つの分類項目にわたっており、広範囲に及んでいる。「がっさり、きらきら、さっぱり、のんびり、はっきり、ふっくら、びっくり」が修飾している名詞は、名詞の分類項目のうち、4つの分類項目にわたっている。つまり、出現頻度および修飾できる名詞項目の範囲にかなりの差異があるが、これはオノマトペの多義性に関わる問題でもある。例えば、「ごろごろする」は「石がごろごろする」「家がごろごろする」「雷がごろごろする」のように、多義的に様々なものを描写することができる。しかし、「ごくごくする」は液体を飲む様子しか描写できず、「ぱくぱくする」は口を動かして何かを食べる様子しか描写できないといった多義的に用いられないオノマトペもある。名詞分類の5つの項目においてすべての項目を修飾することができるオノマトペもあれば、名詞分類の項目のごく一部の名詞に限定して用いられるオノマトペ、つまり「一方依存の関係」⁹にあり、結びつきが強いオノマトペなど様々であることが分かる。本稿では、「オノマトペ+する」の多義的用法も十分に考慮し、分析

⁹ 副詞としての用法しかないものは、その副詞が修飾する動詞と「一方依存の関係」の関係を持っているものが多い。「すやすや」といえば「眠る」「寝る」など、睡眠に関する動きの内実を述べるもので、それ以外の動きについて述べることはない。一方、「相互依存」の関係を持つオノマトペは、オノマトペが特定の動詞とだけ組み合わせるわけではない。つまり、特定の動きだけについて述べるものではなく、さまざまな動きのある側面について述べるものである。「相互依存」の関係を持つオノマトペは「スル」を付加して動詞として独立した用法を持つものも多い。

を行うことにする。

4.1.2. 被修飾名詞の特徴

ここでは、被修飾名詞の特徴を『分類語彙表』の分類項目に沿って 4.1.2.1~ 4.1.2.5.で考察を行う。下位分類の詳細を図2に示す。

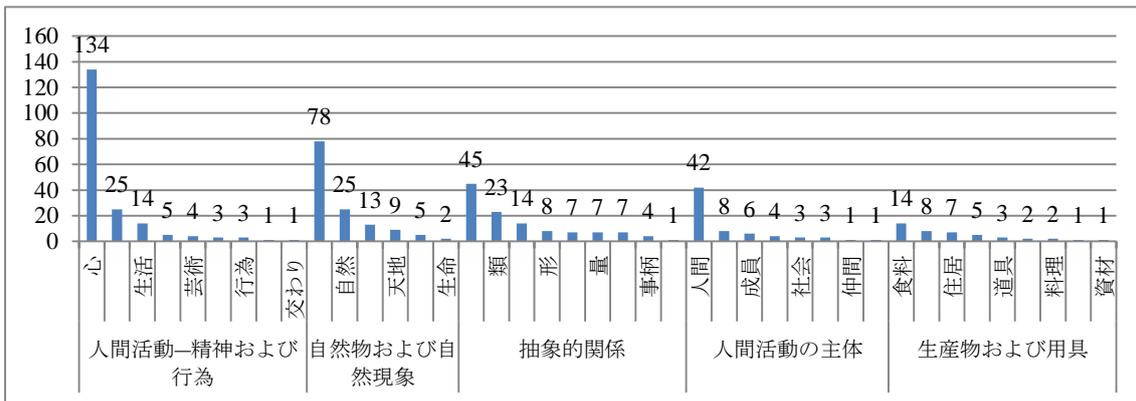


図2: 被修飾名詞に関する詳細

4.1.2.1. 人間活動—精神および行為 (190/34.6%)

「人間活動—精神および行為」を表す名詞には、「心、言語、生活、事業、芸術、待遇、行為、賛否、交わり」の下位分類項目があるが、本稿で考察した用例にはこの9項目のすべてが含まれている。「人間活動—精神および行為」の下位分類において、「心」を表す名詞が圧倒的に多い。以下に、「人間活動—精神および行為」の用例を挙げる。紙幅の都合上、上位のものを提示することにする。以下同様。

(29) 現代の企業にとってまさに必要なのは、消費者の頭のなかへの抽象的なイメージの刷り込みではなく、はっきりした言葉、明解な論理を叩き込むことだ。(高橋 真人) 【言語】

下位分類にある「心」に属する名詞が圧倒的に多く、被修飾名詞には主に「五感」に関わるものや「気持ち」を表すものである。「言語」を表す名詞は主に「言語」そのものおよび「数字/文字」などが含まれている。文字や言語を表す名詞は主に「しっかりする」「はっきりする」のように、伊東(2006)で言う、「知的活動動詞の代動詞」として「オノマトペ+する」の形で定着しているものの修飾を受けることが多い。「人間活動—精神および行為」を描写するオノマトペは、「いらいら、うろうろ、おどおど、・・・等」を含む49語である。人の様子を描写するものが最も多く、次いで多く表れているのが感情を描写するものである。

4.1.2.2. 自然物および自然現象 (132/24.0%)

「自然物および自然現象」を表す名詞には「身体、自然、物質、天地、植物、生命、動物、生物」の下位分類項目があるが、本稿で考察した用例には「動物」、「生物」の項目が含まれていない。「自然物および自然現象」の下位分類において、「身体」を表す名詞が圧倒的に多い。以下に、「自然物および自然現象」

び自然現象」の用例を挙げる。

- (30) 「うっわあ〜逆恨みもいいところねえ」 私が言うと、「いえ、わたしの力が足りなかったせいなんです…」 彼女はおっとりした目を少し細めて、辛そうに呟く。(鏡 貴也) 【身体】

「手、顔、目、頭、胸、髪の毛」などの身体名詞が自然物に分類されているため、人間を描写するオノマトペも多くなっている。「自然物および自然現象」を表す名詞のうち、身体名詞以外は、物の性質を表す静的なものがほとんどである。「自然物および自然現象」を描写するオノマトペは、「あっさり、うんざり、おっとり・・・等」を含む49語である。物の状態を表すオノマトペと、人の様子を表すオノマトペが最も高い割合を占めている。

4.1.2.3. 抽象的關係(116/21.1%)

「抽象的關係」を表す名詞には「様相、類、空間、形、作用、量、時間、事柄、存在、力」の下位分類項目があるが、本稿で考察した用例には「力」の項目が含まれていない。以下に、「抽象的關係」の用例を挙げる。

- (31) 韓国には日本の茶道に似たものとして茶礼がありますが、堅苦しい作法や決まりごとはなく、あくまでも心穏やかにし、ゆっくりした状態でお茶を楽しむというのが基本のようです。(新見 寿美江) 【様相】

「抽象的關係」を表す名詞は「様相」に偏っているが、「しっかりする」「はっきりする」などの「知的活動動詞の代動詞」として用いられるオノマトペは、抽象的な名詞を修飾することが多い。ここでも「抽象的關係」の名詞は「はっきり/しっかり」の修飾を受ける用例が非常に多かった。「抽象的關係」を表す名詞を描写するオノマトペは「あっさり、うっかり、おっとり・・・等」を含む36語である。人の様子描写するオノマトペと物の状態描写するオノマトペが多い一方、感覚描写するオノマトペが非常に少ない。これは、「抽象的關係」を表す名詞は主に事柄や空間などを表す名詞であるため、感覚を表すオノマトペが用いられにくいと思われる。

4.1.2.4. 人間活動の主体(68/12.4%)

「人間活動の主体」を表す名詞には、「人間、人物、成員、機関、社会、家族、仲間、公私」の下位分類項目があり、本稿で考察した用例にはすべて含まれている。「人間活動の主体」の下位分類において、「人間」を表す名詞が半数以上を占めている。以下に、「人間活動の主体」の用例を挙げる。

- (32) ぼさぼさの髪を後ろになでつけ、灰色の開襟シャツを着ていた。体格のがっちりした男性だった。石段を降りる豹一郎と、それを登る男の目が合った。(樋口 正洋) 【人間】

「人間活動の主体」を表す名詞は、動作主の性格や風貌を特徴づけるため、「シタ」形で属性規定す

るものとして用いられていると思われる。「人間活動の主体」を描写するオノマトペは、「あっさり、うじうじ、うろうろ」等を含む31語である。このうち、人の様子を描写するオノマトペが多く、約86%を占めている。

4.1.2.5. 生産物および用具(43/7.8%)

「生産物および用具」を表す名詞には、「食料、衣料、住居、機械、道具、物品、料理、土地利用、資材」の下位分類項目があり、本稿で考察した用例にはすべて含まれている。「生産物および用具」の下位分類において、「食料」を表す名詞が最も多い。以下に、「生産物および用具」の用例を挙げる。

- (33) マスカルポーネ自体がこったりした生クリームといった趣なので、生クリームは使わなくても良いかもしれないとも思います (Yahoo!知恵袋) 【食料】

「生産物および用具」を描写するオノマトペは、「あっさり、ざらざら、こっくり」等を含む24語である。最も多いのは物の状態を描写するものである。この類の名詞は、料理や衣料、住居などを表す名詞である。そのため、物を触った時の手触りなどの感覚を表すオノマトペも多く用いられている。

4.2. オノマトペの意味的特徴に関する考察

ここでは、オノマトペの意味的特徴とその被修飾名詞の関わりについてみていく。「オノマトペ+する」が取り得る4形式の「オノマトペ+スル/シタ/シテイル/シテイタ」がそれぞれどのような名詞を修飾しているのかについて考察したあと、それぞれの個別の問題についても触れて行く。

4.2.1. 「オノマトペ+する」の数量的考察

「シタ/シテイル/スル/シテイタ」(頻度順 以下同様)の4形式における用例の分布は以下、図3のようになっている。名詞修飾用法において、「シタ」形で用いられるものが圧倒的に多く、約78%を占めている。オノマトペが「スル動詞化」する際に、「シタ」形で用いられるものが最も多いことは既に黄(2011)によって考察されている。これは、図3で示した名詞修飾用法にも反映されていることが分かる。

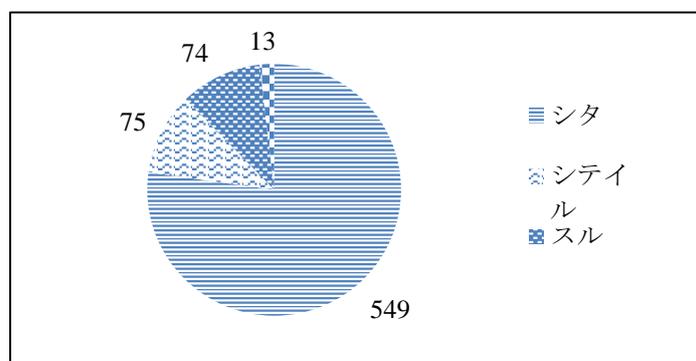


図3: 「する」型の詳細

金水(1994)および加藤(2003)を参考に、711 例のオノマトペを「属性」として解釈されるものと「できごと性」として解釈されるものに分類を試みた。その結果、図4のようになる。

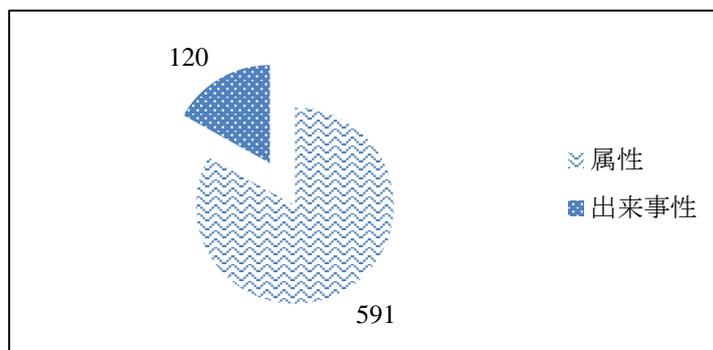


図4: 属性と出来事性として解釈される名詞の詳細

オノマトペの名詞修飾用法においては、「できごと性」として解釈されるものは、「属性」として解釈されるものより圧倒的に少ない。つまり、人の様子やモノの状態を描写するため、「属性」としての解釈が優位になると考えられる。したがって、オノマトペの名詞修飾用法はほとんどが寺村および金水などで言われている「形容詞的用法」であることが確認できる。

「オノマトペ+する」型の名詞修飾用法は、先に見たように「シタ/シテイル/スル/シテイタ」の4形式によって使用頻度にかかなりの違いがある。大坪(1988)の分類方法を参考にし、「オノマトペ+する」について分類を行った。以下、表2に示す。

表2: 大坪(1988)を参考に筆者が行った分類

知覚の対象になるもの	スル	シタ	シテイル	シテイタ	個別合計
1 人間の音声を表現するもの	—	—	—	—	—
2 人間の容貌・表情を表現するもの	3	84	11	2	100
3 人間の体つきをあらわすもの	0	35	3	0	38
4 人間の服装を表現するもの	2	13	2	0	17
5 人間の行動を表現するもの	14	16	17	3	50
6 人間の性情を表現するもの	4	45	4	0	53
7 人間の内部感覚・感情などを表現するもの	39	106	17	4	166
8 自然界の音響を表現する	—	—	—	—	—
9 自然界の様子を表現するもの	0	27	0	0	27
10 植物の立てる音響を表現するもの	—	—	—	—	—
11 植物の様子を表現するもの	—	—	—	—	—
12 動物の鳴き声を表現するもの	—	—	—	—	—
13 動物の立てる音響を表現する	—	—	—	—	—

14 動物の様子を表すもの	0	2	1	0	3
15 動物の動きを表現する	0	0	0	1	1
16 事物の立てる音響を表現する	—	—	—	—	—
17 事物の様子を表現するもの	4	58	3	0	65
18 事物の動きを表現するもの	1	11	1	2	15
19 事物の分量・程度・確実さ・進行などを表現する	0	26	2	0	28
20 抽象的概念を表現するもの	7	126	14	1	148
合計	74	549	75	13	711

0: 収集したデータの中に用例がなかったもの

一: 今回収集したデータの中にオノマトペ自体が存在しなかったもの

20: 1-19は大坪の分類に従っているが、「20の抽象的概念を表現するもの」は、大坪の19の分類に当てはまらないものを分類するために筆者が加えたものである

「2 人間の容貌・表情を表現するもの」、「7 人間の内部感覚・感情などを表現するもの」、「20 抽象的概念を表現するもの」の用例が圧倒的に多く、「7」において「シタ」形で用いられたものは、感情を表すものよりも「ぴりぴりした痛さ」のような感覚を表すものである。

「シタ/シテイル/スル/シテイタ」の4形式は、それぞれどのようなオノマトペが使われているのか数量的考察を行った。この4形式において、「シタ」形が圧倒的に高い割合を占めており、「スル/シテイル」形の2形式は数量的にそれほど違いがあるわけではなく、「シテイタ」形で用いられたものが最も少ないということが分かった。

4.2.2. 「オノマトペ+する」の意味的特徴

4.2.1.で触れたように、「オノマトペ+する」は「属性」として解釈されるものが圧倒的に多く、「できごと性」として解釈されるものは比較的少ない。以下、「できごと性」として解釈されるものを示す。

- (34) そのやわらかい声を思いたしたとたん、胸にざわざわしていたこわい **気もち**が、しずまっていた。(上橋 菜穂子) 【心】
- (35) アナウンサーやレポーターに危ない場所から中継させるのですか？風雨が強いことがわかる映像ならいいんじゃないかと思うんですが。人が壊れたビニール傘を持ってヨタヨタしてる**映像**って、そんなに意味あるでしょうか？(Yahoo!知恵袋) 【映像】
- (36) なんていうか、ひじとか、ひざの、じくじくしていた**傷口**がカサブタになってはがれた、みたいな、さばさばとした表情だった。(笹生 陽子) 【形】
- (37) 「ほーら、全部入ったでしょう。これで安心だ。よかったねえ、おばあちゃん」 それを見て、最初はニコニコしていた**鈴木さん**が、急になにかを思い出したようです。(横田 濱夫) 【人物】

これらの「できごと性」として解釈されるオノマトペは、名詞分類における項目のほとんどをカバーしている。しかし、「生産物および用具」を修飾するオノマトペのうち、「できごと性」として解釈できる用例は1例も見当たらなかった。「できごと性」として解釈されるオノマトペは、(37)のように主に「人間活動の主体」を修飾している。この場合の修飾するオノマトペと修飾される名詞の間は寺村のいう「内の関係」を成している。本稿で扱ったデータにおいては、「内の関係」を成す名詞修飾用法は比較的少なく、「内の関係」以外の「外の関係」「形容詞的用法」が大多数を占めている。

知覚の対象が「2」の人の容貌であっても、オノマトペの意味的特徴によって、「属性」として解釈されるものと、「できごと性」として解釈されるものがある。つまり、「あっさりしている表情」と「はきはきしている表情」は、どちらも表情を属性規定しているのとらえることもできるが、「はきはきはきはきはき」に比べていくぶん動的に感じることから、「今まさにはきはきとした表情で何かをする」という動作を伴っているように思われる。

大坪の分類は「知覚の対象」を基準にしている。上述したように「内の関係」以外のものは、修飾される名詞と知覚の対象が一致しないような用例が今回収集したデータにも多く現れている。以下、用例の一部を示す。

- (38) ここであんまりうっかりした立場をとりますと、国会の決議なんというものは全くないがしろになってしまうわけですね。(国会会議録)
- (39) ちなみに、ヨーロッパの携帯電話の音は、まだ正弦波の音源を使用しているために、電車の中で全員がキョロキョロする状況が続いているらしい。(みつとみ 俊郎)
- (40) 天然系も、気が利くとかしつかりした面も持たないと、たんなるアホに思われる。要はバランス。でも、いざれバレルから、あまり作り過ぎない方がいいと思いますけど (Yahoo!知恵袋)
- (41) カルテに書き込まれたアルファベットの続け文字には、ぞくぞくする秘密めいた美しさがあった。(小川 洋子)
- (42) 底砂をパクパクして様子もありません。他の魚につつかれたのでしょうか? (Yahoo!知恵袋)

寺村が「外の関係」を論じる際にあげている被修飾名詞のうち、本稿で取り上げていない形式名詞だけでも504例に上る。さらに、本稿で扱っている711例のなかにも、「外の関係」のものが多い。

さらに、人の容貌を描写する際に名詞修飾用法を用いられる場合は、(43)、(44)のように、「シタ」形も「シテイル」形も用いることができる。しかし、述語用法になる際には「シタ」形は用いられず、「シテイル」形しか用いることができないオノマトペが多く存在する。

- (43) 顔がふっくらしている人。体に関しては、肉があってもいいけど、大きくつまめるくらいの人にはデブ。他人からみて、痩せたとわかるのは、だいたい何キロくらいですか? (Yahoo!知恵袋)
- (44) 自分の中でおもしろいあだ名をつけるといいですよ!本名とくっつけて何回かつぶやけば簡単です!たとえば色白でふっくらした人→大福みたい!→「大福大好き〇〇さん」 (Yahoo!知恵袋)

被修飾名詞が「人」の場合は、「ふっくらしている太郎/ふっくらした太郎」はどちらも正確な文で

あり、これを「太郎がふっくりしている」にしても自然な文になるが、「*太郎がふっくりした」は不自然な文あるいは非文になる。このように「シテイル/シタ」形で属性規定するものであっても、述語用法を持つものとそうでないものがある。

次に見るのは、擬情語つまり感情や感覚を表すものである。先行研究においては感情・感覚を1つにまとめて議論を進めているが、感情を表すものにも程度差などが存在し、同じ部類に分類するのに不適切なものもある。吉永(2008)によれば擬情語は、大きく次の3つのタイプに分かれる。「1:感情的な心理状態を表すもの(イライラする、うんざりするなど)」「2:心理状態のほかに身体的動きをも強く含意するもの(おどおどする、そわそわするなど)」「3:主に知覚感覚を表すもの(ずきずきする/ひりひりするなど)」。このように、感情を表すオノマトペの中にも、主に外見に現われないものと外見に現われるものがあり、それによって、その被修飾名詞も違ってくる。

- (45) 女性陣は、聞く前からややうんざりした表情を隠さない。「どれ、とっておきの話を君らに聞かせてやろう。わしがかつてまだ紅顔のうぶな大学生だった頃の話だ。(恩田 陸)
- (46) 声は一オクターブ下がり、おどおどした様子もなくなった。「ええ、違うわ。リサは私の義理の姉よ。さあ、Eメールをよこしなさい」もはや若々しい美人には見えなかった。(京兼 玲子)

今回のデータから「うんざりする」が名詞を修飾する用例は全部で7例あるが、そのうち6例が「表情」を表す名詞を、1例が「気持ち」を表す名詞を修飾している。それに対して、身体あるいは外見にまで及ぶ「おどおどする」はほとんどが「様子」を表す名詞を修飾している。

擬態語が「具体的な名詞」を修飾し、擬情語が側面語を修飾することが特徴的であると述べている笹本の記述について検証を行った。どこまでを抽象的表現として見るかによっても結果が違ってくると思われるが、擬情語は(47)のように側面語を描写するものが圧倒的に多い(笹本 2007 による)が(48)(49)のように抽象名詞を修飾するものも少なくない。さらに、擬態語は(50)のように具体的なものを描写する(笹本 2007 による)ことが多いという結論を得ているが、(51)(52)のように抽象名詞を描写する際にも多く用いられている。

- (47) 涉はどこかしらそわそわしている様子だった。祐之介が一緒の時よりもずっと、彼は落ち着かなげだった。といっても、それは後になって思い出したことである。(小池 真理子)
- (48) 最後にびっくりする結末を迎える映画を教えてください。この3作品は絶対にみて〜!♪ (Yahoo!知恵袋)
- (49) SF作品のような派手なアクションとか、冒険作品のようなわくわくどきどきする展開を期待しているなら、ちょっと考えた方がいいかも知れませんがね。(Yahoo!知恵袋)
- (50) 高校の時、千田さんの家に美術部の友だちと遊びに行ったことがある。古くてどっしりした家だったと思い出しかけていた。(岩瀬 成子)
- (51) けど、フォーク研究会にはいる気しないんだ。ああいうクラブって、ネチネチした雰囲気があるんだよね。(松山 千春)
- (52) 万が一取り付けが可能でも観音開き(折れ戸)かシャッター式しかないですね。でも日常の開放には難しいのではないかな?雨戸が横にぶらぶらしている状態になると思うシャッター式な

ら格好が悪い…(Yahoo!知恵袋)

4.3. まとめ

以上、本稿では、オノマトペに後続する「シタ/シテイル/スル/シテイタ」の4形式における特徴およびその被修飾名詞の特徴を見てきた。「する」型が取る4形式と被修飾名詞の関係をまとめると次の図5のようになる。

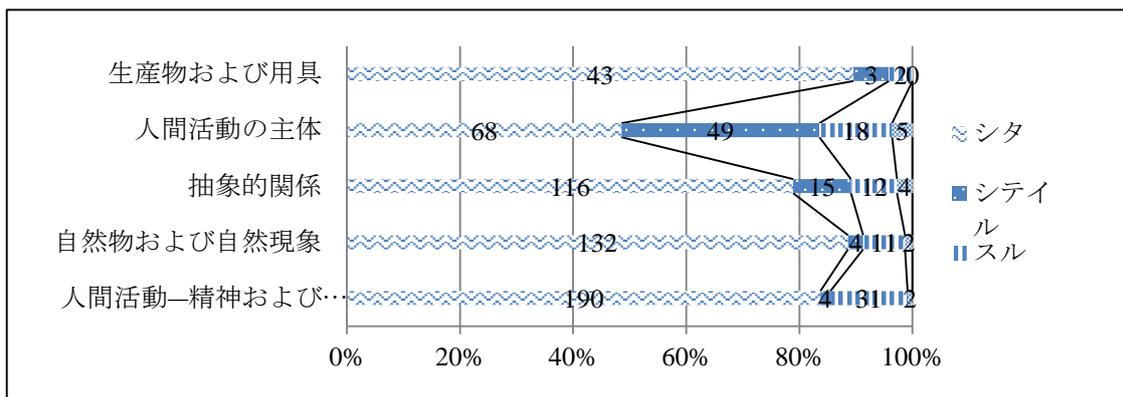


図5: 「シタ/シテイル/スル/シテイタ」形と被修飾名詞の詳細

「シタ」形における被修飾名詞の傾向は「する」型全体の傾向と同じである。「シタ」形における被修飾名詞は、「人間活動—精神および行為」が占める割合が最も高く、主に静的・属性規定するものである。「シテイル」形における被修飾名詞は、「人間活動の主体」が占める割合が最も高い。「シテイル」形は、動作主の動作の進行を表すと同時に、ある動作の結果状態を表すことができるため割合が高くなっていると考えられる。「スル」形における被修飾名詞は「人間活動—精神および行為」が最も多く、次いで多く用いられているのが、「人間活動の主体」である。これは、「スル」形で用いられるものには、主に感情や感覚を表す擬情語が最も多いことに起因している。擬情語は主に動作主の「感情・心情」とともに、動作主が五感を通して感じ取った「感覚」などを修飾する。高橋(1994)および笹本(2007)などでも触れているように、人間の気持ちや感覚を表す擬情語は「スル」形が多用されている。「シテイタ」形における被修飾名詞は「人間活動の主体」が最も多い。「シテイタ」形は主に「シテイル」とない対立をなし、ある過去にその動作を行っていたことを述べる際に用いられる。このような理由から、「シテイタ」形で「生産物および用具」を表す名詞を修飾できるオノマトペは1例も現れていないと考えられる。

5. おわりに

本稿では、「オノマトペ+する」が名詞を修飾するものを取り上げ、修飾するオノマトペの意味的特徴およびその被修飾名詞の特徴について考察を行った。「する」型によるオノマトペの名詞修飾用法は「シタ」形に集中していることが分かった。しかし、「シタ」形のうち、「属性」として解釈されるものが圧倒的に多く、時制解釈、つまり「できごと性」として解釈されるものは非常に少ない、ということが明らかになった。

被修飾名詞においては、「人間活動—精神および行為」が占める割合が最も多く、約31%を占めている。「人間活動の主体」および「自然物」に属する「身体名詞」を加えると、人間に関わるものが占める割合が非常に高いことが分かる。つまり、「オノマトペ+する」型による名詞修飾用法は、人間に関する描写に最も多く用いられているということが分かる。

本稿で扱ったデータにおいては、「内の関係」を成す名詞修飾用法は比較的少なく、「内の関係」以外のものが大多数を占めていることが分かる。そして、「シテイル/シタ」形で属性規定するものであっても、述語用法を持つものと名詞修飾用法しかないものがあることも1つの特徴としてあげられる。さらに先行研究で指摘されているような擬情語や擬態語が修飾する名詞の違いについても一部は裏付けることができたが、本稿で扱ったデータからは、そうでないものがあることも確認できた。

本稿では、用例数が少なかったことなど不十分な点がある。さらに、被修飾名詞の分類は『分類語彙表』に従っているが、この分類方法が「オノマトペ+する」型による名詞修飾用法を分析する際にどれくらい有効なのかを再検討することの重要性も感じられる。

今後は、用例分析を進めながら「オノマトペ+する」の特徴をさらに明確にしたうえで、被修飾名詞が取り得る「格」に関して、そして被修飾名詞だけでなく、動詞とのコロケーションの観点から考察することを課題としたい。

参考文献

- 伊東真美(2006)「日本語オノマトペの「スル」動詞化の研究」『日本語学会 2007 年春季大会予稿集』: 45-52
日本語学会.
- 大坪併治(1988)『擬声語の研究』東京: 明治書院.
- 奥津敬一郎(1974)『生成日本文法論 名詞句の構造』東京: 大修館書店.
- 筧寿雄(2001)「“変身”するオノマトペ」『月刊言語』30-9 東京: 大修館.
- 影山太郎(2005)「擬態語動詞の語彙概念構造」『第二回中日理論言語学研究会ハンドアウト』: 1-9.
- 加藤重広(2003)『日本語修飾構造の語用論的研究』東京: ひつじ書房.
- 川瀬卓(2006)「象徴詞を動詞化する形式の変遷」『人文論究』99: 29-42 九州大学.
- 金水敏(1994)「連体修飾の「～タ」について」田窪行則編『日本語の名詞修飾表現』: 29-65 東京: くろしお出版.
- 金田一春彦(1978)「概説」浅野鶴子編『擬音語・擬態語辞典』東京: 角川書店.
- 黄慧(2011)「現代日本語におけるオノマトペの「スル動詞化」について —現代日本語書き言葉均衡コーパス BCCWJ を用いた調査を基に—」『言語・地域文化研究』17: 東京外国語大学.
- 笹本明子(2007)「オノマトペの名詞修飾について」『奈良教育大学国文』30: 52-64 奈良教育大学.
- 譙燕(2010)「「オノマトペ+スル」動詞の分類と用法」『日本語の擬音語・擬態語に関する研究』: 73-89
中国北京: 学苑出版社.
- 鈴木重幸(1957)「日本語動詞のすがた(アスペクト)について — ～するの形と～しているの形 —」
金田一春彦編『日本語動詞のアスペクト』: 65-9 東京: むぎ書房(1976 に収録)
- 高橋友子(1994)「擬声語擬態語の一考察」『九州大学留学生センター紀要』6: 33-40 九州大学.
- 田窪行則編(1994)『日本語の名詞修飾表現』東京: くろしお出版.

- 田守育啓, ローレンス・スコウラップ(1999)『オノマトペ—形態と意味—』東京: くろしお出版.
寺村秀夫(1975-1978)「連体修飾のシンタクスと意味(1)-(4)」『日本語・日本文化』4-7: 大阪外国語大学
研究留学生別科.
三上京子(2007)『日本語オノマトペとその教育』早稲田大学 博士論文.
吉永尚(2008)『心理動詞と動作動詞のインターフェイス』大阪: 和泉書院.

辞書類

- 浅野鶴子編 金田一春彦概説(1978)『擬音語・擬態語辞典』東京: 角川書店.
阿刀田稔子, 星野和子編(1995)『擬音語擬態語使い方辞典』東京: 創拓社.
天沼寧編(1985)『擬音語・擬態語辞典』東京: 東京堂出版.
小野正弘(2007)『擬音語・擬態語4500 日本語オノマトペ辞典』東京: 小学館.
曹金波(2008)『標準日本語擬声語・擬態語』中国大連: 大連理工大学出版社.
飛田良文, 浅田秀子編(2002)『現代擬音語・擬態語用法辞典』東京: 東京堂出版.
山口仲美編(2003)『暮らしのことば 擬音・擬態語辞典』東京: 講談社.

使用コーパス

- 国立国語研究所(2009)『現代日本語書き言葉均衡コーパス 2009 モニター公開版(BCCWJ)』

参照資料

- 国立国語研究所編(2004)『分類語彙表』東京: 大日本図書.

A Study of “Onomatopoeia + *suru*” as Noun Modifier in Japanese

Huang Hui

(Tokyo University of Foreign Studies, Ph.D student)

Keywords: onomatopoeia, “*suru*” verbication, noun modification, corpus, Japanese education

In this study, I focused on the “onomatopoeia + *suru*” form, which modified the noun. I classified “onomatopoeia + *suru*” forms and modified nouns, then I analyzed what kind of nouns are modified by the “onomatopoeia + *suru*” form, and examined about the correlation between the former and the latter.

It is revealed that the “onomatopoeia + *suru*” form used as noun modifier usually appeared as “-*shita*” form. Most of the forms can be interpreted to express “attribute”, while those which can be interpreted to express “event” are few.

With respect to the modified nouns, the most of them express “human activities – spirits and action”. Including also “nouns of body parts” which belong to the “nucleus of human activities” and the “natural objects”, it can be said that most of the modified nouns are relevant to humans. In other words, the “onomatopoeia + *suru*” forms as noun modifier are mostly used for describing about human beings.

As to the data used in this study, there were comparatively few noun modifiers which formed the “inside-relation”, namely, the other usages were the majority. There is another feature of the “onomatopoeia + *suru*” form. Even if it determined the attribute as “-*shiteiru* / -*shita*” form, some are used also as predicate, but others used only as noun modifier.